

2021年室内環境学会学術大会 大会長奨励賞 受賞の言葉

A-22 ハウスダスト中放射性セシウム濃度の経時変化

○高木麻衣¹⁾, 田中敦¹⁾, 菅野宗夫²⁾, 田尾陽一²⁾, 中山祥嗣¹⁾

1)国立環境研究所 2)ふくしま再生の会*

このたび、2021年室内環境学会学術大会で発表いたしました“ハウスダスト中放射性セシウム濃度の経時変化”にて大会長奨励賞を賜りましたこと、誠に光栄に存じます。

2011年3月の東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故によって放射性物質が、東日本の広範囲に飛散し、地表に沈着してしまいました。土壌に沈着した放射性物質は、外部被ばく源になるとともに、室内環境にも侵入していることが分かってきていること、また、ハウスダストの摂食は、食品と同程度に内部被ばくに寄与する可能性があることがわかってきました。本発表では、茨城県つくば市（2011年～）および福島県飯舘村（2013年～）において実施した、長期間のハウスダスト（掃除機じん）中の放射性セシウムのモニタリングを行った結果を報告いたしました。

ハウスダスト中の放射性セシウム濃度は、物理減衰や繰り返しの掃除による除去により、どちらの地域も時間とともに徐々に低減していること、飯舘村では家の建替えによって大幅に減少したこと（ただし、飯舘村では建て替え後は下げ止まっている可能性あり）が観察されました。また、飯舘村の建替え後・新築住宅でもハウスダスト中の放射性セシウムは、土壌や大気粉じん（事故後初期を除く）中の放射性セシウムと比較して水に溶けやすい画分の割合が高かったため、土壌や大気粉じんではない別の汚染源が存在する可能性が示されました。今後は、さらに汚染源に関する解析を進め、ハウスダスト中の放射性セシウムの低減に貢献したいと考えています。また、この結果を室内環境学会で報告したいと考えております。最後になりましたが、本研究の遂行にご協力や多くの助言を頂きました方々に衷心より感謝申し上げます。

……著者データとプロフィール……



高木麻衣
(たかぎ・まい)
国立環境研究所
主任研究員
博士(環境学)



田中敦
(たなか・あつし)
国立環境研究所
室長



中山祥嗣
(なかやま・しょうじ)
国立環境研究所、次長
医師・博士(医学)



菅野宗夫
(かんの・むねお)
ふくしま再生の会
副理事長



田尾陽一
(たお・よういち)
ふくしま再生の会
理事長

* ふくしま再生の会：東京電力福島第一原子力発電所の事故によって破壊された生活と産業の再生を目的とした非営利団体（認定NPO）で、全村避難となってしまった福島県飯舘村を中心に活動しています。村での生活の再生を目指す村民とともに、ボランティア・専門家が協働して村での生活と産業の再生を目指して、そのために必要な各種の活動を行っています。（<http://www.fukushima-saisei.jp/>）